••*•*•*•*•*•*•

キレイゴト 京都市教育長賞

京都市立岩倉南小学校 六年

依めかっ 里り

謝された、と。あのきれいごとは本当だったのだ。この話も「アニ てみた。視線が集まる。ドキドキする。断られたらどうしよう。変 月後、いつものように電車に乗っていたら、ご年配の方がやってき の人はとてもうれしそうに、「ありがとう」と言ったのだ。その一ヶ た。ただ、それだけだ。一しゅんだった。あの女の子の一言で、女 とすぐに言ったのだ。女の人は「ありがとう。」と満面の笑みで言っ 年か、年下くらいの背をした女の子が、「どうぞ、お座りください。 たのだ。 メの話じゃないか。」と思うかもしれない。だが私は本当にそう思っ までに感じたことがないほどうれしくなった。初めて会った人に感 とってもうれしいわ。」とにこにこしながら言ったのだ。 私はいま な人と思うだろうか。そう思っていたら、ご年配の方は「ありがとう。 た。私はあの女の子を思い出し「どうぞ、お座りください。」と言っ ティマークをかばんにつけた女の人が乗ってきた。そして私と同い 日。私は習い事にいく途中で、電車に乗っていた。すると、マタニ なそういう。ただのきれいごとだ。そう思っていた。いつもの金曜 「良いことをすれば自分も相手もうれしくなる。」 大人たちはみん

れてほしくない。

ができる。ありのままの自分でいることで楽しいことを楽しいと、 ブに物事を考えられるはずだ。また、ありのままの自分でいること 思いやりであるから。夢に向かって走り続けることができるから。 悲しいことは悲しいと、 レイゴト」だ。 「良いことをすれば自分も相手もうれしくなる。」私が大好きな「キ 大切にすることで気持ちが明るくなる。明るくなることでポジティ 私はきれいごとがきらいだ。でも今は好きだ。希望がもてるから。 社会を明るくするために、私は私自身を大切にしたい。私自身も 自分の気持ちを受け入れやすくなる。



望で小さな勇気、小さな勇気で大きな思いやり。たとえそれが不可

社会を明るくするために、私は希望が必要だと考える。小さな希

能に思える希望でも信じてみることで勇気は生まれる。また

希望。私はこの希望を忘れたくない。そして、他の人たちにも、忘

が私たちは希望を忘れている。大きな希望は感じられるだろうが、 があれば犯罪や非行に手を染めるようなことは起らないはずだ。だ

小さな希望は感じられない。身近すぎるのだ。生きることができる

00 ,0₀ 0000 •°° • °° •00 • 0 • 0 • 0 • 0 • 0 • 0 •

•°°•°°

京都市教育長賞 優しさの輪

京都市立加茂川中学校 二年 杉ぎ

いおり

雰囲気であふれている。 ながかけてくれる言葉だ。三歳まで過ごしたその町はいつも温かい「おかえり!待っていたよ。」私が田舎に帰省したら、いつもみん

心が弾む。私の夏休みはいつもこんな感じだ。 を見せてくれた。「みんなを呼んで、スイカ割りをしようか?」と てきたで!」と毎日がお祭りみたいな海の家のおじさん。そして、 食いの白菜。「帰ったって聞いたけぇ、おじさんとこのかき氷作っ ろう。」とお好み焼き屋のおばさんが手を振ってくれる。「今、野菜 大好きなひいおばあちゃんは、私の頭と同じくらいの大きなスイカ とりたてやから持って行き!」と近所の親戚のおじさんの手には虫 道を歩けば、「よー帰ってきたねぇ。ひいおばあちゃん喜んだじゃ

殻、畑に着くと同じように畑に来ていた近所のおばさんたちがいて、 を一緒に押して畑に向かう。細いあぜ道を歩くのも慣れたもの!誰 夏野菜を収穫することだ。夕方少し涼しくなったら、大きなリアカー よりも速く走っていける。道沿いには食べられる赤い実、 トマトを食べるのが楽しい。 緒に話をしながら、自分で収穫したちょっと曲がったキュウリや そして、私が一番やりたいこと!それはひいおばあちゃんの畑の 蝉の抜け

中でクスッと笑いながら、 菜を作るのは初めてらしく、ひいおばあちゃんや周りの人が色々と だ。「とうとう、ひいおばあちゃんの畑も国際化したなぁ。」と心の だった。実は中国から来た人で、畑を借りて野菜を作っているそう ふと隣の畑を見ると、初めて見る人が一生懸命畑の草を抜いてい 挨拶をして話しかけたら日本語があまり上手ではないみたい なんだか嬉しくなった。その人は畑で野

> 思った。みんなでできた野菜をいくつか交換して、「また明日! るのだと感じた。 ろうに、丁寧に上手に野菜を作ってすごいよ。」とひいおばあちゃ る国の人が同じ土地で助け合って野菜を育てるなんて素敵だなと でいる。野菜を自分で育てて食べるのがとても楽しいそうだ。異な 教えてあげていた。みんなとても親切だからすでにその人もなじん と言って別れる。「こんな田舎で言葉もあまり通じなくて心細いじゃ んがほめていた。 言葉が多少通じなくてもお互いに伝わるものがあ

は本気で怒られる。地域みんなで子どもたちを育て、そしてそんな り、スポーツ大会や盆踊り、レンゲ畑に飛び込んで遊んだり、時に かが率先して声をかけ様子を見に行く。一緒に地域の溝掃除をした 思いやる心は素晴らしく、困っている人がいれば誰かが手を差し伸 経験を得ることができる。地域の人たちの深いつながりやお互いを ションに無関心な人が増え、人と人とのつながりも少ない時代だが まれ、犯罪や非行もなく過ごしていけるのだと思う。 みんなが温かく、助け合っているので、お互いに強い信頼関係が牛 大人からもらった思いを胸に私たちは育っていくのだ。このように べ、外国から来た人や、お年寄りだけで暮らしている家があれば誰 私はこうやって沢山の人たちに囲まれて過ごすことができ、多くの ーT化が進み、何でも手に入る便利な世の中で、人やコミュニケー

も沢山の人たちが助けてくれ、声をかけてくれるのだから。 れた沢山の人との優しさの輪があるから何も心配していない。 緒に畑に行くことはない。でも、ひいおばあちゃんがつないでく 今年の一月、私の大好きなひいおばあちゃんは亡くなった。 もう

かい場所が沢山あることが、 も相手がホッとできる心を許せる存在でありたいと思う。そんな温 つの大きな力につながっていくと思うからだ。 私は困っている人を一人にしない。声をかけてどんな形であって 多くの人の心を救い社会を明るくする

葬儀の後、ひいおばあちゃんが楽しみにしていた庭のしだれ梅が、 *•*•*•*•*•*•*•*•*•*•*

るね。」と心が温かくなったのは忘れない。一つだけ咲いているのを見つけた。「ひいおばあちゃんもここにい



